

わかりやすく

最近心配事や悩みがあります。

新学習指導要領に関したことです。

世間では様々な課題があるかもしれないが、歴代学習指導要領から見ると、自体よくできているな、と感じている。

では、何を悩んでいるかという、新学習指導要領が目指す理念を説明することである。

今年行っていることは、学校に対しての説明と議会や財政当局への説明である。

学校に対しての説明では、先生が教育の専門家なので、用語への理解は心配いらない。また、小学校は外国語やプログラミング教育という新しいものが盛り込まれたので、危機感があるので、能動的に動いてくれると信じている。しかし、中学校は特に新しいものがない。そして、小・中ともに、主体的で対話的な深い学びへの理解が課題となる。

「主体的」「対話的」「深い学び」という言葉自体は新しいものではないが、これを実現する質の高い授業への改善及びカリキュラムづくりへの危機感が出ているのか心配である。そのための説明が十分できているのかどうか心配している。

さらに、事業を立ち上げるための予算折衝で、教育に関わりのない担当者との交渉である。

1つ1つ言葉の説明から、授業の内容の説明を丁寧に行うのである。説明の根拠として、法令用語や専門用語を意図的に使うが、わかるだろうと思っていることが理解されなかったり、事業を不必要と判断されたり、なかなか難しいのである。

考えてみれば、保護者への説明も同様かもしれない。担任の言葉が、保護者にとっては「宇宙語」に聞こえているかもしれない。授業で子供に教える場合はなおのことである。

さて、考えてみれば、今の教育は、子供が身に付ける力の一つとして「根拠をもとにわかりやすく説明すること」を求めている。となれば、我々大人も教育に直接関わらない方が理解できるような説明をする力が求められているのである。

次代を担う子供だけがこれらの力を身に付けるのではなく、現役大人も実践が求められるのである。英語はまさに典型的なことで、子供だけに「カチつけて」はいけないのである。

今後も中学校道徳教科書採択、新学習指導要領に対応する小学校及び中学校の教科書採択など、説明し理解して頂く事業が続く。

我々がこの程度だから、児童生徒、保護者、地域への説明を行う学校はもっと様々なことがあるだろう。

学校のがんばりを応援している。

そのためには我々は心配し悩まなくてはならないだろう。